

AV情報スクランブル

Audio Visual Information

11月 Scramble

主要記事

平成12年度文部省助成「デジタルビデオ教材ワークショップ」参加者募集
放送ライブラリー開館記念国際シンポジウム「デジタルアーカイブ新時代」を開催

松下視聴覚財団「平成12年度全国視聴覚教育研究会西方大会」
千葉市本町小「総合的な学習の時間」公開授業
成城学園「第29回教育改造研究会」

協会情報

平成二二年度文部省助成「デジタルビデオ教材ワークショップ」参加者募集

日本視聴覚教育協会では、平成二二年度標記ワークショップを二月二六日（火）、二七日（水）の二日間、東京都渋谷区代々木・国立オリンピック記念青少年センターにおいて開催する。

1・趣旨

教育の場で利用できるデジタルコンテンツの開発を促進することを目的に、教職員等を対象とするデジタルビデオ教材開発ワークショップを開催する。このワークショップでは、単にデジタルビデオの撮影や編集の技術の習得だけでなく、その基礎となる視聴覚技術についての修得をめざす。

2・ねらいと方法

このワークショップでは、映像制作を経験したことのない初心者であっても、マルチメディア技術を活用したデジタルビデオによる映像教材の自作ができるようになることをめざす。これはマルチメディアパソコンを使ったデジタル

ビデオ編集の知識技術を得るばかりでなく、映像教材の企画構成、映像設計、カメラ割りなどの基礎的知識をふまえ、各グループごとに、デジタルビデオカメラを持って作成する。映像編集については専門家からアドバイスを受けながら、三分程度の簡単な映像教材にまとめ、研修の最後には試写を行い、講師、受講者で協議を行う。

3・受講対象者

学校教育・社会教育関係者、学

部・大学院学生、教材制作者等

4・定員

四〇名（ただし二日間受講可能な方に限る）

5・参加費

資料・教材費 八、〇〇〇円 / 懇親会費 三、〇〇〇円

6・日程

二月二六日（火）

九：三〇受付 / 一〇：〇〇開

講・講義 映像教材制作における

企画（構成）、映像設計、カメラ

割 / 二二：〇〇昼食 / 一三：〇〇

実習 カメラの使い方、撮影の技

法 / 一六：〇〇実習 映像の取込

編集の準備 編集ソフトの説明 /

二〇：〇〇グループごとに終了 /

ブック・レビュー

「Study Guide メディア・リテラシー（入門編）」鈴木みどり編、リベルタ出版、二〇〇〇年八月、B五判、一二六頁、一九〇〇円（税別）

現在、本誌でも特集連載中のように、「メディア・リテラシー」に対する関心が高まっている。それは「ちやうやく」という感じであるがこの問題にどう取り組んだらよいか、については具体的な方法ないしは提案はほとんど見られなかったように思う。

この本は、まさにそうした悩みや疑問にひとつの答えを提出するものといえる。编者である鈴木みどり教授にとっては、まさに「ちやうやく」動き出した「メディア・リテラシー」への取り組みに、長年のFCT（市民のメディアフォーラム）での、また立命館大学での実践を基盤とした「入門」としての提案を世に問うものといえるだろう。内容は、「第一章 メディア・リテラシーをどう学ぶか」に始まり、テレビをめぐる問題で、各四回の学習者自身による作業がその基本的な考え方とともに示されている。



すなわち、

第二章 私とメディア、私たちとメディア

第三章 テレビ・コマーシャルとは何か

第四章 テレビドラマと私たちの社会

第五章 ニュース報道を読み解く

しかも、例えば第三章では、使用する記入シートと分析シートとして『CM数量』分析シート、『映像言語』分析シート、『ターゲット・オーディエンス』分析シート、『CMが提示する価値観』分析シート』など 学習活動に利用するシートが挿入されており、拡大コピーで活用できるよう工夫されている。執筆者も鈴木教授とともに活動している人たちであり、優れた実践の手引きといっべき書物で、活用を奨めたい。（高桑 康雄）

二〇：三〇懇親会

二月二十七日（水）

九：〇〇実習 編集の作業／昼食・休憩／編集の作業・添削／一五：〇〇協議 作品の試写と協議
今後の課題／一六：三〇終了
7・使用OS・ソフト

マッキントッシュ MacOS／編集ソフトiMovie2 Final Cut Pro

ウィンドウズ Windows98／使用ソフトAdobe Premiere他

8・講師

家野幸輔氏（ニューヨーク州立大学名誉教授／前沖縄国際センター視聴覚室主任）、村瀬康一郎氏（岐阜大学助教授）、吉田昌生氏（国際協力事業団国際協力専門員）、他

9・申し込み

左記へ申し込み書を請求の上、二月四日（月）までに、申し込むこと。〒一〇五 〇〇〇一 東京都港区虎ノ門一 一七一 視聴覚ビル（財）日本視聴覚教育協会 ワークショップ係 電話〇三三五九一 二一八六 <http://www.javea.or.jp/>

AV 情報

放送ライブラリー開館記念国際

シンポジウム「デジタルアーカイブ新時代」を開催

（財）放送番組センターは、横浜市閩内地区の横浜情報文化センターに、一〇月一四日（土）より新・放送ライブラリーの一般公開を開始した。

同ライブラリーは、テレビ・ラジオ番組が楽しめる視聴ホールのほか、新たに放送の魅力体験できる映像展示ホール、番組上映会や公開セミナーを開催するイベントホールなどからなるもの。同センターでは開館を記念して、欧米の放送ライブラリーの最近の取り組みを紹介し、二一世紀のデジタルアーカイブと放送文化をパネルトークで展望する「デジタルアーカイブ新時代 情報化社会と番組アーカイブ」（入場無料）を下記のとおり開催する。

1・日時
一一月一〇日（金）午後二時三〇分～午後四時三〇分

2・会場
神奈川県民ホール（横浜市中区）

3・パネリスト・コーディネーター
パネリスト 大山勝美氏（演出家、プロデューサー）、坂村健氏

「メディア・リテラシー 世界の現場から」

菅谷明子著、岩波新書、二〇〇〇年八月刊、新書判、二二四頁、六六〇円（税別）

この本は、メディア・リテラシーの最新動向をイギリス・カナダ・アメリカを中心に紹介し、コンパクトにまとめている。

若手ジャーナリストらしい、はつらつとした文章で、各国がメディア・リテラシーに取り組んできた背景を紹介し、授業のようすや放送局、草の根メディアの取り組みを紹介している。子どもジャーナリストの活動やメディアを監視する市民団体、インターネットに対するメディア・リテラシー情報を提供するNPOのこまで書かれている。

キーバースンを取材し、その考え方を述べさせる手法は、ジャーナリストならではといえる。

本書では、明確な結論を述べてはいないが、制作することによってリテラシーを育成する方向が強調されている。私も賛成できるが、その一方で、映像を批判的に読みとる教育が、教師の価値観を押しつ



けてしまいがちなことを数力所で指摘している。確かにそいつった危険性はあると思う。

ただ、日本の学校では、授業で映像を扱うこと、特にコマースやルやバラエティ番組を扱うことにはまだまだ抵抗がある。一部の教師がやっとなり始め、教育雑誌に紹介されるようになった段階といえる。教師による価値観の押しつけは、今後の実践の中で克服して行くべきである。なぜならば、映像を教材にすることが当たり前にならなければ、学校に映像制作やゲーム制作を受け入れてもらうのはもっと難しいと思うためである。

この本は、メディア・リテラシーという考え方が日本に与える最も良い影響は、多様な取り組みの尊重なのだといつことを教えてくれる良書と言える。

(村野井 均)

研究会情報

(東京大学教授)、ダグラス・F・ギボンズ氏(米・ラジオテレビ博物館ライブラリー部長)、セルジュ・ラフォン氏(仏・国立視聴覚研究所副館長)、コーディネーター 高柳雄一氏(NHK解説委員) 4・申込方法

住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記してファックスで(〇四五 六四一 二二一〇)申し込むこと。〒三三一 〇〇二一 横浜市中区日本大通二一 横浜情報文化センター 放送番組センター国際シンポジウム係 電話〇四五 二二二 二八二八 <http://bjpi.or.jp>

松下視聴覚財団「平成二二年度全国視聴覚教育研究会西方大会」

主催 (財)松下視聴覚教育研究会 財団/期日 一一月一七日 (金)/テーマ「情報メディア活用により『探求・表現・交流』授業をめざす」/シンポジウム・コーディネータ 赤堀侃司氏(東京工業大学教授)、山内祐平氏(茨城大学助教授)他/記念講演「まると健康・自然家族」清水国明氏(タレント)/会場 栃木県西

方町立西方小学校/問い合わせ 〇三 五四六〇 二七〇五

千葉市本町小「総合的な学習の時間」公開授業

主催 千葉市立本町小学校/期日 一一月一七日(金)/テーマ「自己を拓き共に生きる新しい学びの創造 自立と共生」/講演「総合的な学習の時間」を開發する「天笠茂氏(千葉大学教授)/会場 同校/問い合わせ 〇四三 二二七 四五〇一

成城学園「第二九回教育改造研究会」

主催 成城学園初等学校/期日 一二月二日(土)/テーマ「分数と小数を関連づけた計算指導」/講師 杉山吉茂氏(早稲田大学教授)/会場 同校/問い合わせ 〇三 三四八二 二二〇六

短 信

(財)新映像産業推進センターは、一一月一三日(月)より下記住所へ移転する。

〒一〇二 〇〇九四 東京都千代田区紀尾井町三 六 秀和紀尾井町パークビル八階 電話〇三 三五二二 三八四一